

講師派遣の講演・教育のテーマ・内容

【ヒューマンエラー防止関連】

1 ヒューマンエラーと防止対策

安全講演や教育テーマとして最も人気があります。人はどんなミスをよくするのか？ その対策について解説します。自分自身の話なので、作業員から管理者まで幅広い人が対象となります。

2 KYT で危険感受性をアップ

作業員の危険感受性を高め、危険に強い人材の育成にKYTが有効です。しかし、一方で実施しているが、マンネリ化している事業場もあります。マンネリを打破し、有効なKYとするためには、正しいKYの意義や手法についての知識を確認することが大切です。基本にかえり、実践的なKYについてわかりやすく解説します。

3 指差し呼称の重要性

ヒューマンエラー防止に「指差し呼称」は効果があります。指差し呼称の効果の解説と、正しい指差し呼称のやり方について実技を交えて行います。

4 交通KYで安全運転

労働災害による死亡者の約3割を交通事故が占めています。交通事故は、被害者になる一方で、加害者にも一瞬でなります。業務中の災害発生は企業の信頼も大きく損ねます。運転事故はヒューマンエラーそのものです。交通危険予知活動について、運転者が行う実践手法や全社的、職場ごとに取り組みを解説します。

【リスクアセスメント等】

5 リスクアセスメントで取組む職場の安全

法令でその実施が努力義務となっているリスクアセスメントは、安全を先取りする管理手法として大変有効です。この手法の内容や実施する際のポイントを解説します。

6 化学物質の管理とリスクアセスメント

化学物質による爆発・火災や健康障害を防止する対策のポイントや平成28年6月より施行された化学物質のリスクアセスメント（最新ツール「CREATE SIMPLE」含む）についてもそのポイントを解説します。

7 化学物質安全データシート（SDS）の読み方、活用方法

適切に化学物質のリスクアセスメントを行うには、SDSを正しく理解することが大切です。SDSの読み方のポイントを解説します。

8 基礎から分かるISO45001及びJIS Q 45100

OSHMSについては、2018年3月のISO規格発行により、今後幅広い業種で導入され

ていくことが予想されます。ISO45001及び日本独自の安全活動等を取り入れた JIS Q 45100の基本から実践まで解説します。

【安全衛生管理責任】

9 労働災害発生に係る責任と安全配慮義務

使用者には労働者が安全に働けるように安全配慮義務がかせられています。ひとたび労働災害が発生した場合、部下を持つ管理監督者にも安全配慮義務違反として責任を問われることがあります。

10 管理・監督者の職務と役割、取組む安全管理

管理監督者は、安全についてどのような職務があり、役割を果たさなければならないか、また、具体的にどのような安全管理を行わなければならないかを解説します。

11 労働安全衛生法を理解して災害防止

一度は「法令」の基礎をしっかりと学びたいとの要望がよくあります。基本的な法令条文を取り上げ、イラスト等を通して、わかりやすく解説します。

【安全衛生管理活動】

12 具体的な安全衛生管理活動

つぎのような安全衛生管理活動について、そのポイントを解説します。なお、単独での講演（教育）や組み合わせての講演（教育）も可能です。

①安全衛生教育の重要性

安全はまず人づくりからです。安全衛生教育・訓練のやり方について分かりやすく解説します。

②作業手順の重要性

作業手順書は、安全に、正しく、速く、疲れない作業を進めていくために重要なものです。適切な手順書の作成のポイントやその教育方法等について解説します。

③保護具の適切な使用方法

働く人の安全と健康を守る保護具ですが、その効果を得るためには、正しい装着と適切な管理が欠かせません。そのポイントを解説します。

④職場の5Sを徹底させるには

5S活動の基本について解説します。なぜ、5Sが必要か？具体的な5S活動の進め方について、各社の事例を取り上げて解説します。

⑤ヒヤリハットの活用

安全先取り情報として重要なヒヤリハット活動についてそのポイントを解説します。

13 職場巡視の効果的な進め方

巡視から巡「思」へ、リスク発見のための巡視についてそのポイント解説します。中部 SC

で人気がある独自企画の“職場巡視（安全衛生パトロール）”セミナーの圧縮版です。

【個別事項 安全衛生対策】

14 転倒災害を防ぐには

転倒災害は、休業4日以上死傷災害全体の2割以上を占め、その割合は増加しています。また、人口動態調査によれば、職業生活を含めた一般生活の中でも、転倒・転落で亡くなる方は交通事故で亡くなる方より多く、転倒の防止は今や国民的課題となっています。転倒の原因や防止対策について解説します。

15 墜落・転落災害を防ぐには

墜落・転落は、一度発生すると死亡災害等、大きな災害に結びつくことが多い事故の型です。発生の多い建設業や製造業、その他の業種においてもその対策の実施が望まれます。具体的な災害事例や対策を解説します。

16 労働災害事例から学ぶ防止対策

事業場で実際に起きた災害事例を基に「なぜなぜ分析」と「4M 要因分類表」を活用して労働災害の原因分析、再発防止対策の検討を行います。

17 地震対策とBCP（事業継続計画）

来たるべく大規模地震に備え、減災（人的・物的被害の最小化）に向け、企業が実施すべき、ハード・ソフト・組織的対応（基本的BCP含む）について事例をまじえ、実践的に学びます。

18 熱中症対策とその予防

熱中症の発生メカニズムや発生防止対策について解説します。

19 職場の腰痛予防対策

腰痛の発生件数は増加傾向にあり、業務上疾病に占める割合が約6割となっています。特に発生の多い、社会福祉施設や運輸交通業、小売業で働く人たちの腰痛予防は重要な問題です。腰痛指針の内容も踏まえて解説します。

20 若年者または高齢者の安全衛生対策

若年者は、知識・経験が少ない、コミュニケーション不足、受動的・仕事への意欲が低いケースがあること、一方、高齢者は、加齢に伴う身体機能等の低下、新しい物への対応が不得手等の課題があります。この傾向を理解した上で、対応する安全衛生対策を解説します。

21 メンタルヘルス関連（セルフケア、ラインケアなど）

強い不安やストレスを感じている労働者は約6割を数え、事業場の重要な課題となっています。事業場で実施するメンタルヘルス対策の具体的推進方法等について解説します。

22 ストレスチェック制度とその活かし方

ストレスチェック制度のもととなる「職業性ストレス簡易調査票」について理解し、調査結果の活用について、メンタルヘルス対策におけるセルフケア、職場環境改善等をグループ討議等を交えながら学びます。

23 コミュニケーションUPで職場活性化

コミュニケーションの不足は、仕事の量や質、職場の人間関係を含む職場環境に影響し、

ストレスを高める原因の一つになっています。日頃無意識に行っているコミュニケーションを改めて見直し、改善する方法を説明します。

24 個別対策研修

- ① フォークリフト災害防止対策
- ② 食品機械災害防止対策
- ③ クレーン災害防止対策
- ④ 機械によるはさまれ、巻き込まれ災害防止対策

25 法定教育

- ① 職長（・安責）教育
- ② フルハーネス型墜落制止用器具作業特別教育

26 能力向上教育

- ① 安全衛生推進者能力向上教育
- ② 安全管理者能力向上教育
- ③ 職長（・安責）能力向上教育
- ④ 衛生管理者能力向上教育

27 そのほか

- ① 騒音作業従事労働者労働衛生教育
- ② 熱中症予防に関する管理者に対する労働衛生教育
- ③ 衛生管理者試験準備講習
- ④ 有機溶剤取扱業務安全衛生教育
- ⑤ 新入社員教育

※上記以外にも、ご要望に応じたテーマや内容で対応いたします。ご相談ください。

【お問合せ先】中災防・中部安全衛生サービスセンター

〒456-0035 名古屋市熱田区白鳥1-4-19

電話 052-682-1731 FAX 052-682-6209

HP：<https://www.jisha.or.jp/chubu/service.html>

E-mail：chubu@jisha.or.jp